

K U M I Y A M A

# ほほえみ紀行



久御山町がもっとおもしろくなる! 行政PR誌



## P.2 防犯体制の充実と 地域コミュニティ「防犯対策」

- P.4 防犯教室 **子どもたちも自ら身を守る術<sup>すべ</sup>を学んでいます**
- P.6 見直される地域社会 注目される自治会活動 **結束力のあるまちに**
- P.8 **絆<sup>きずな</sup>を深めて住みよいまちづくり お互いに協力**
- P.9 町長に聞く **安全で安心して暮らせるまちづくりを実現**
- P.11 桃源紀行「伊勢講<sup>いせこう</sup>」 継承されてきた風習は今も生き続けている
- P.12 くみやまほほえみ Worker 防犯と地域の「キーパーソン」

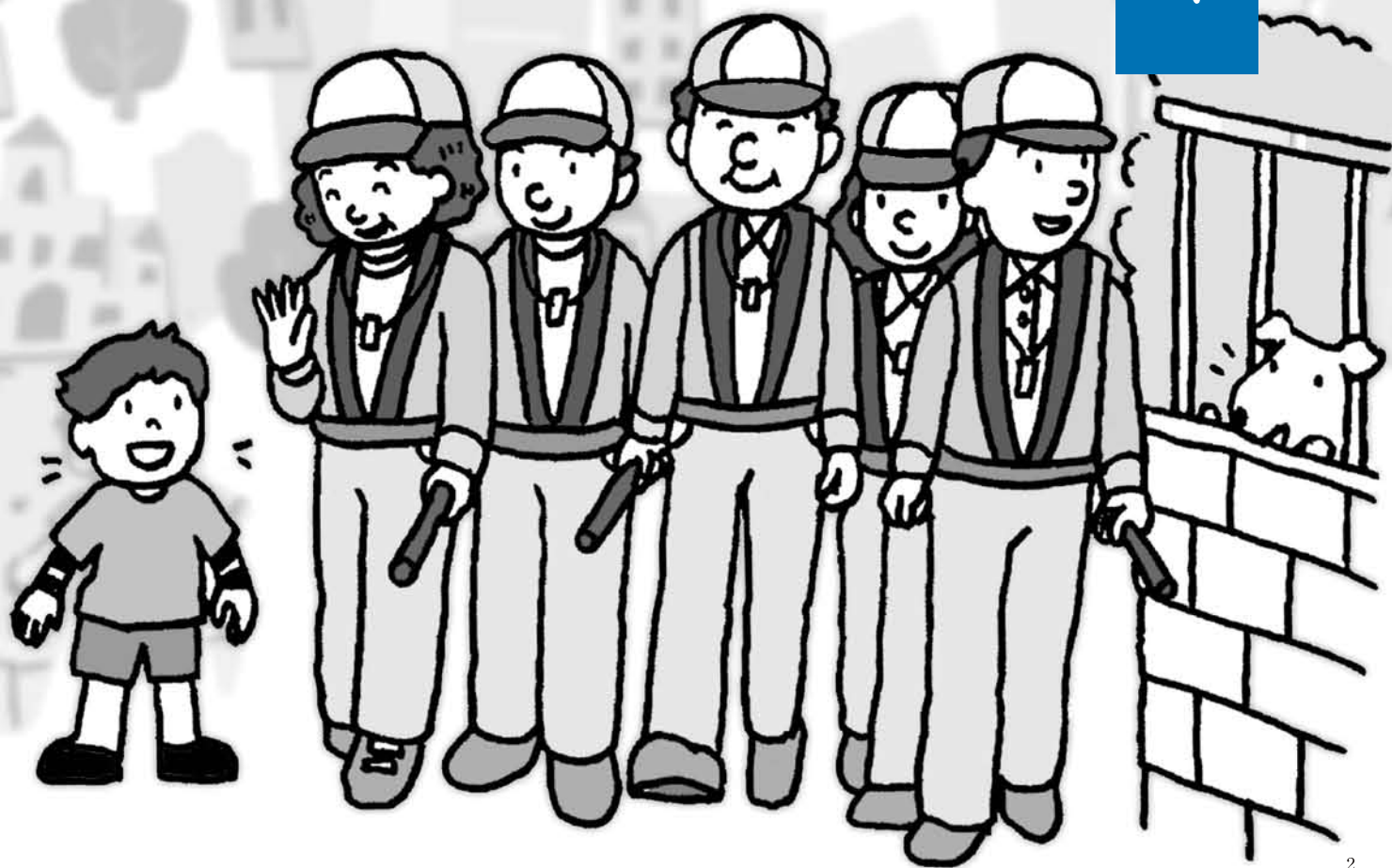
毎月1日は  
安全・安心の日

# 防犯

## 対策

放火や空き巣などの犯罪、子どもたちを巻き込んださまざまな事件が全国的に多発しています。事件が起こりにくい地域づくりを目標にして犯罪に備えた心構えを確立することが欠かせません。私たちの暮らしから犯罪の不安をなくすために、まずは一人ひとりが身近な防犯に取り組むことから始めませんか。

今回の特集では、防犯体制の充実と地域コミュニティについて考え、警察や行政の働きかけ、また自治会やボランティア団体、学校などの自主的な活動を紹介します。



# その 1 カギかけ

カギかけは、自分でできる  
最も簡単な防犯対策です。

ドアや窓に防犯性の高いカギをつけ、すぐ開けられないようにしておきましょう。10分以内に侵入できないと犯行をあきらめるといわれています。



# その 2 声かけ

犯罪者の約半分以上が「声かけ」で  
犯罪をあきらめると答えています。

常に人々の気配があるところ  
には、犯罪者が侵入しにくく、  
人気のないところを好みます。  
ちょっと一言が対策です。



# その 3 気にかかけ

防犯の始まりは、犯罪について  
気にかけることからです。

どのような犯罪がおこなわれているのか常に情報  
を入手しましょう。また、防犯グッズなど意識的に  
携帯するように心掛けるとよいでしょう。



## 防犯グッズの携帯



災害や犯罪による火災に備えて  
万が一煙が充満した中においても、  
しばらく呼吸を確保できます。



煙フード



住所・氏名・血液型など、  
必要な情報を記入して  
おきましょう。

サバイバルカード

緊急時の対象方法など  
記載したものを準備して  
おきましょう。



防犯マニュアル



夜間の照明を  
行き届かせる街灯



死角をなくすための  
防犯ミラー

## コミュニティの広がり 安心できる地域環境へ

久御山町では、まちに潜む暗がりや死角をなくし、  
安全で安心して生活できる地域環境づくりに  
努めています。住民と行政がともに協力し、より強  
固な結束力で犯罪のないまちをめざしましょう。

# 防犯教室



# 子どもたちも自ら身を守る術を学んでいます

急増する児童誘拐事件を防ぐためには保護者や学校、地域の人が見守る一方で、子どもたち自身も防犯意識をもたなければなりません。  
昨年の冬休みを前に、御牧小学校で防犯教室がおこなわれました。

## 一人歩きは危険です

不審者に誘拐されそうになった場合を想定して、宇治警察署の警察官から「自分の身の守り方」を教えていただきました。

「悪い人も普段は普通に見えるけれど、子どもが一人や二人きりになった時にだけ悪いことをおこなうのです」というお話がありました。肉食獣が群れから離れてしまった子どもの鹿やシマウマを襲うように、単独での行動がいちばん危険なのです。

久御山町の各小学校区では、それぞれ地域の関係機関や団体、ボランティア等の協力によって、登下校時の見守りや防犯・交通パトロールがおこなわれていますが、子ども自身の防犯意識



## 守りごとは「イカのおすし」

防犯教室で配られた紙には「イカのおすし」という、子どもの危険回避のための注意事項が書かれています。知らない人に誘われても「いかない」、車から声を掛けられても「のらない」、不審者が近づいたら「おおご



大きな声を出す練習をする子どもたち



子どもたちにわかりやすく解説折りたむとミニリーフに



## 緊急の事態に備えた

### 通報装置

学校では不審者が侵入した場合の避難訓練も毎年おこなわれています。各教室には職員室につながる非常ベルが設置され、職員室から警察へ直通した通報システムが整えられています。



【各教室に設置された緊急通報システム】



【警察へ直通の警察非常通報装置】

えをだす」、怖いと感じたら「すぐにげる」、お父さんやお母さんや先生に「しらせる」。この5か条の頭の文字をつなげて「イカのおすし」と覚えておきましょう。

### 声や音で周りに知らせよう

不審者に声を掛けられた時は、大声を出して知らせます。防犯教室では学年対抗のゲームで「助けて〜」と叫んで大声を競いました。しかし、いざとなれば不安や緊張から大人でも声が出なくなってしまうものです。

声が出せない時は、防犯ブザーを使って助けを求めます。ランドセルやかばんにぶら下げるのではなく、いつでもすぐ鳴らせるように衣服に直接つけておきます。

「防犯ブザーを持っていない人はクリスマスにおねだりするか、自分のお年玉で買いますよ」という警察官の言葉に、「え〜」と笑い返す子どもたちですが、決して大げさでも冗談でもありません。安全への危機感と、自分の身は自分で守るという意識をしっかりもちましょう。

### 逃げ出すチャンスをつくる！

護身術で相手の気をそらして逃げる機会をうかがいます。

「護身術を覚えると自分は強いという感覚に陥ってしまいがちですが、子どもの力では大人に勝てないことを忘れないでください」という注意もありました。あくまで相手にすきをつくって逃げるのが目的です。

実際に訓練して、犯人に扮した警察官の足の親指を児童が狙って思い切り踏みつけました。犯人が痛い思いをして一瞬ためらったすきに急いで逃げます。それからさつき練習したように大声や防犯ブザーで周りの人に異変を知らせます。「こども110番のいえ」に駆け込み、近くなければどんな家でも、お店でも必ず助けてくれます。

最後に「学んだことを家族とも話し合ってください」と警察官からあいさつがありました。子ども同士で助け合い、子どもと大人でよく話し合い、学校や地域が連携しながらかけがえのない生命を守っていききたいものです。

### 座談会

## 地域全体で 子どもの安全を守る取り組み



宇治警察署生活安全課係長  
村上 学さん



御牧小学校校長  
堀口 清之さん



学校教育課指導主事  
岩崎 善之さん



#### 堀口校長

防犯教室は大変わかりやすいお話で子どもたちも真剣に感じていました。広島と栃木の事件は衝撃が大きかったですから、子どもたちに警察の方から専門的なご指導をいただきましたのです。宇治市内でも痛ましい事件が起こってしまい、なおさらです。

#### 村上係長

そうですね。子どもの安全対策や一般の防犯も含めて指導していますが、最近では特に防犯に関心を持つ方が多いように感じます。幼い生命が狙われているという危機的状況にあります。

#### 堀口校長

御牧小学校では、保護者に下校時のボランティアを呼びかけて、20人ほどの応募がありました。また、今までの交通安全に主眼を置いて通学路を見直し、子どもや保護者、教師から見た危険箇所を加えた安全マップをつくっているところです。複数下校を指導していますが、最後

に一人になる子がいますからそれも調査しています。

#### 岩崎指導主事

佐山小学校や東角小学校でもPTAや校区青少年健全育成協議会をはじめ、各関係団体のみなさんによるパトロールなどの取り組みをおこなっていただいています。

#### 村上係長

各学校での自主的な取り組みには頭が下がる思いです。さらに地域の方の参画があれば効果的です。「こども110番のいえ」の看板も、地域が積極的に防犯対策をおこなっていることを示し、犯人へのプレッシャーにするという意味があるのです。地域の皆さんが参画することで地域全体の防犯意識が高まります。

#### 堀口校長

今後も、警察や保護者、地域のみなさんご協力を得ながら子どもたちの安全を守っていきたいと思っています。

# 見直される地域社会 注目される自治会活動

自治会の希薄化が進み地域社会の崩壊が危惧される一方で、価値観や情報が多様化する社会生活の中で、あらためて自治会や地域コミュニティに目を向け、暮らしのあり方を考え地域活動に率先して参加する動きが見られるようになってきています。

痛ましい事件や事故、突然の災害に立ち向かうことができるまちをめざし、地域ぐるみでの働きが必要であるという住民自身の認識のもとに、住民のみならず、自治会が主体となって活動がおこなわれています。

## 子どもがターゲットに

宇治市、長浜市…、最近子どもが被害者となる事件が連続しています。不審者情報の届け出だけでも数えきれません。この種の事件は、コミュニケーションが希薄な地域で起こりやすいといわれ、地域ぐるみの交流や声掛けなどが活発におこなわれている地域では犯罪が起きにくいといわれています。

## 自治会の再認識

久御山町には、現在39の自治会組織があり、各自治会では、防災への備えや防犯への地域ぐるみの取り組み、さらに地域福祉、文化・スポーツ、環境衛生など、さまざまな活動がおこなわれています。

自治会加入率は減少傾向にありましたが、度重なる自然災害への不安や増加する犯罪に対して、地域ぐるみでの対策の重要性が唱えられ、コミュニテ

ィの必要性が見直されています。昨年はわずかながら加入率（加入人口）が増加し、今後さらに増加することを期待しています。また、自治会を中心に自主的な防災組織や防犯組織も結成されています。

## 安全・安心に向けて いまこそコミュニティが必要です

久御山町では、小学校の登下校時に保護者や先生たちが子どもを見守ることとはもちろんのこと、地域の関係機関や団体、ボランティア、安全パトロール員らによる巡回など安全・安心対策に取り組んでいます。

しかし、それぞれの活動だけでは限界があり、十分とはいえません。今以上に、地域と行政が協力し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要不可欠です。

自治会加入数の推移

年度	自治会数	加入世帯数 (世帯)	加入人数 (人)	町の世帯数 (世帯)	町の人口 (人)	加入世帯の 割合 (%)	加入人数の 割合 (%)
1	39	4,100	15,910	5,839	18,964	70.2	83.9
5	38	4,006	15,230	6,039	18,931	66.3	80.5
10	39	3,769	13,665	6,144	18,166	61.3	75.2
11	39	3,784	13,492	6,254	18,023	60.5	74.9
12	39	3,788	13,294	6,289	17,879	60.2	74.4
13	39	3,748	13,045	6,284	17,694	59.6	73.7
14	39	3,730	12,829	6,294	17,513	59.3	73.3
15	39	3,695	12,585	6,327	17,300	58.4	72.7
16	39	3,703	12,433	6,402	17,211	57.8	72.2
17	39	3,737	12,432	6,482	17,173	57.7	72.4

資料：企画財政課（各年4月1日現在）

# 結束力のあるまちに

## 「向かい三軒両隣り」の精神でおこなわれるさまざまな取り組み

### 防犯モデル地域指定

#### 防犯・防災対策協議会

久御山町では、地域防犯活動を促進するため1年を期間として、モデル地域を募集しています。今までに栄1・2丁目、栄3・4丁目自治会が町と宇治警察署によって防犯モデル地域に指定され、地域内に啓発看板の設置や講習会の開催などさまざまな取り組みがおこなわれてきました。

町では、引き続き指定自治会を拡大し、今後も自治会独自の活動を支援するとともに、安全に対する意識を高めることを目標としています。

また、東角小学校区の11自治会、消防団などが集結して「東角校区防犯・防災対策協議会」が結成されています。

夜回りの実施や玄関灯・門灯を点灯して不審火や犯罪の防止に努めています。

### 「屯所寄合衆」のふれあい

松陽台（佐山校区）の自治会OBらが2年前から「屯所」と名付けた集まりを立ち上げ、月一回のふれあいをおこなっています。毎回15人以上が参加し、夏祭りや餅つき大会、季節の行事などを開催し、地域の交流を深める活動を盛んにしています。この屯所のメンバーによって、夜回りや声かけ運動などの防犯活動がおこなわれています。

また、宇治青年会議所の呼び掛けに

よる「ちよいパト運動」にも協力し、積極的に地域の安全のために日々活動をしています。

### 暮らしの安全を常に考える消防団

久御山町では男性185人、女性10人の消防団員が町の安全を守る活動に励んでいます。地震や台風による災害に備え、また、昭和28年の宇治川の決壊に学び、いざというときのために目を光らせています。昨今増加するひとり暮らしの老人宅を交代で訪問し、何か変わったことはないかなど気配りを欠かしません。許し難い放火による火災を防ぐために、夜回りやパトロールもおこなっています。犯罪や災害に対応するためにはスムーズな情報伝達が欠かせないと考え、日ごろからの地域社会の交流を盛んにおこなうこと、人任せではなく自分たちの身は自分たちで守るという意識を住民の一人一人が持つことが大切です。

### 日常生活の中で

#### さりげなくできること

北川顔公園や東一口公園などでは、公園の清掃の際に周囲の危険物の点検や声掛け運動、不審者に対しての警戒などを意識し、お互いに気にかけることを心掛けています。ちょっとした気配りが安全なまちづくりの第一歩です。

## 住民のみなさんが望む対策と防犯・防災の意識調査

町では町政モニターのみなさんに防犯・防災に関する意識調査をおこないました。その回答の結果、不安を抱いているものの町などでおこなっている防犯・防災対策にかかわる制度などの知名度は、まだまだ低い傾向が見られました。

また、犯罪や災害に対して、普段から不安に思っていることなど、多くのご意見を次のとおりいただきました。その結果は、個人レベルで気にかけていることをお互いに話し合い、情報交換や情報収集をすることで改善されることが多くあり、今後とも地域と行政が協力して、安全で安心して暮らせるまちづくりをめざします。

- ◎街灯の照明を明るくしてほしい
- ◎近所同士の声の掛け合いが必要
- ◎情報ネットワークの整備が必要
- ◎小学校や通学路が心配
- ◎登下校時一人になるので心配
- ◎見知らぬ人がうろついている
- ◎危険場所や避難経路等わかりやすい地図がほしい
- ◎自治会で年何回か話し合いの場をもつ
- ◎地域パトロールを続けたい
- ◎放火が心配
- ◎氾濫対策に河川整備をおこなってほしい
- ◎洪水や地震の時、停電になった時など、家族とどのように連絡を取ればいいか
- ◎夜中に消防車が見回りしていて安心した

「存じますか？」	はい	いいえ
◎町がおこなっている「防犯・防災出前講座」を知っていますか？	33.8%	66.2%
◎京都府の防犯・防災情報メール配信サービスを知っていますか？	15.5%	84.5%
◎町や自治会が実施する防犯・防災訓練に参加したことがありますか？	45.1%	54.9%
◎町からの避難情報の伝達方法を知っていますか？	28.2%	71.8%
◎災害時に自分で避難できない場合、家族や近所の知り合い等で、協力しあえる体制ができていますか？	31.0%	67.6%

# 絆きずなを深めて住みよいまちづくり

防犯活動を軸に、地域での新旧住民、老若男女問わず人々のつながりが深まってきています。防犯対策は、子どもから高齢者まで世代を問わず、関心が深く切実な問題です。

自治会のみならず、PTAや青少年育成協議会など、既存の団体のメンバーや目的を持って新たに団体が結集しやすく、交流が生まれます。

## 地域社会での取り組み

防犯をテーマにした講習会「防犯出前講座」。実例をもとに詳しく解説します。住民の関心も高く、各自治会等からたくさんの方の要望を受けています。講座では「致団結はじめよう地域防犯」(冊子)を配布しています。



登下校時に学校の校門で、周囲に気を配りながら、子どもたちに声を掛けて、立ち番をする安全パトロール員

# お互いに協力

パトロールに協力してくださる車両にマグネットシールを配布し犯罪抑止に努めています。常に見張りをすることで、犯罪が起こりにくい環境をつくりましょう。



## 行政と地域住民が一致協力して

久御山町では、平成15年に生活安全条例を制定し、生活安全まちづくり連絡会を通して行政と住民、事業所等が協力して安全・安心のまちづくりをめざしてきました。今後も、参加団体の活動内容などの情報を共有化し、引き続きパトロール員の配置や防犯教育の充実に努めるなど、安全確保に取り組んでいきます。

## 地域の声を反映・行政の役割

昨年、実施したまちづくりアンケート調査の結果、将来の久御山町の姿では、災害や犯罪・事故の少ない安全・安心なまち、今後必要な整備については、防犯対策や交通安全の確保という回答が最も多く、犯罪に対する意識の高さが表れています。

総務課に新設した「防災係」では、自然災害による被害や学校などでの凶悪犯罪など、災害や犯罪に対して防災・防犯体制を強化していきます。

## 暮らしの基盤、地域のつながりで一層強化

さらには、学校や地域での取り組みが安全で安心なまちづくりに欠かすことはできません。家庭や地域社会の連携・協力によって関係機関や団体の方々による活動の輪がさらに大きくなることを期待しています。





## 安全で安心して暮らせる まちづくりを実現



安全で安心して暮らせるまちづくりの実現は、すべての住民の願いです。

しかし、最近では通学途上や校内で子どもが犠牲となる犯罪が後を絶たず、広島、岐阜、そして京都宇治での凶悪事件では、保護者のみなさんや子どもたちが胸を痛められたことと存じます。幸い、本町においては、悲惨な事件は起きていませんが、これらの事件を教訓に、事件は「いつ、どこでも起こりうる」という危機感、緊張感をもって安全対策を講じなければなりません。

本町は、平成15年に生活安全条例を制定しました。生活安全まちづくり連絡会を通して行政と防犯・防災活動を展開する各種団体等が連携を図り、安全・安心のまちづくりをめざしています。この連絡会は大変重要なものになってきており、引き続き参加団体の活動内容などの情報を共有化しながら子どもたちの安全確保に取り組んでまいります。

このように本町は、かねてから子どもの安全を守るための対策を講じてきておりますが、幼い命を襲う凶悪な

事件が多発するなかで子どもの安全を守るためにはより一層の対策強化が必要であると考えております。

具体的には、不審者の侵入を防ぐため、各小学校や幼稚園、保育所の門扉にオートロックシステムを導入し、出入口を施錠することで安全を確保してまいります。

また、通学路における登下校の安全対策面では、各小学校で子どもの視点に立って作成した通学路安全マップをもとに、安全パトロール員配置の充実に加え、地域の関係団体やPTA、ボランティアなど、多くの方々のお力をお貸しいただくなかで、子ども安全ネットワーク事業により、各小学校に「子ども見守り隊」を編成して、できる限り隙間のない取り組みを展開することとしております。

多発する災害や犯罪に対して、防災・防犯体制を強化することにより、安全で安心して暮らせるまちづくりが実現します。今後はさらに家庭や地域社会の連携・協力によって関係機関や団体の方々による活動の輪が大きくなることを期待しています。

# より多くの情報を収集 早く、確実に 緊急時に備えて、シュミレーションを

**知って安心**  
**設置場所を熟知してください**  
**子ども110番のいえ**

地域のさまざまなところに「子ども110番のいえ」が設置されています。ロビーから、エレベーターにあるのが確認し、このステッカーのことを子どもたちに知らせるようにつけてください。何かあったらすぐに連絡することを指導してください。

- 京都府の配信情報
- 防犯・犯罪情報
  - 気象情報
  - 防災情報
  - 要配慮者・支援者情報
- 久御山町ほか府内市町村からの情報
- 防災・安心情報
- 選択した市町村からの避難に関する情報や災害時の生活情報などをお知らせします。

**【登録方法】**

空メールを送信します。  
(パソコンや携帯電話から)

[anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp](mailto:anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp)

↓

京都府から返信されるメールに記載されているアドレスへアクセスし、受信登録をおこなってください。

↓

以下の登録が選択できます。  
※久御山町の情報は「山城中部」を選択してください。

■ 府からの情報配信

全市町村のほか、個別の市町村ごとの選択(複数選択)ができます。

↓

登録が完了すると携帯電話の場合は登録完了の表示がされます。

京都府では、犯罪の発生情報や気象情報などをお知らせする配信サービスをおこなっています。また、久御山町からも防犯・犯罪情報を配信していますので、情報収集にご活用ください。



**【タイトル】**  
○○区内で、不審者が出没しています。

**【本文】**  
サングラスとマスクで顔を隠した、人物が頻繁に目撃されています。.....

## 防犯相談窓口のご案内

くらしの窓口	暴力について	京都府警察本部暴力110番	075(451)6888	
		京都府暴力追放運動推進センター(財)	075(451)8930	
		配偶者暴力相談支援センター	074(441)7590	
	けん銃に関する通報・相談	京都府警察本部けん銃情報110番	075(414)1024	
	性犯罪・ストーカーの通報・相談	京都府警察本部レディース110番	075(411)0110	
社会生活に関する相談	麻薬・覚せい剤の通報・相談	京都府警察本部覚せい剤110番	075(451)7957	
	国の行政全般に関する苦情	総務省京都行政評価事務所行政苦情110番	075(211)1100	
	消費生活	消費生活の相談	京都府消費生活科学センター(代)	075(821)0210
			久御山町役場産業課	075(631)9964 0774(45)3914
		悪質商法の相談	京都府警察本部悪質商法110番	075(451)9449
	消費生活	多重債務者の相談	京都府貸金業協会(社)	075(222)7600
		訪問・通信販売について	日本訪問販売協会(社) 訪販110番(転)	06(6946)9654
			日本通信販売協会(社) 通販110番(転)	06(6357)1590
	人権相談(差別、セクハラなど)	京都府女性総合センター	一般相談	075(692)3437
			労働相談	075(692)3438
		京都府地方務局女性の人権ホットライン	075(231)2014	

TEL. **直通** 075(631)9991・0774(45)3922  
 FAX. 075(632)1899  
 E-mail [soumu@town.Kumiyama.kyoto.jp](mailto:soumu@town.Kumiyama.kyoto.jp)

**防災・防犯については、久御山町役場総務課 防災係へ。**

警察の管轄が一部変更になります。平成18年4月1日より、大橋辺地域の管轄が淀交番(伏見署)から田井交番(宇治署)になります。



# 伊勢講いせこう〔藤和田〕

久御山町の各地域には、今も「講」と呼ばれる集団があり、地域によって異なりますが、それぞれ集まるしきりがあります。風習によって、日待講であったり、伊勢講であったりしますが、主に、正月・5月・9月に集まる習慣がありました。

## 継承されてきた風習は今も生き続けている

正月におこなわれる藤和田の伊勢講の集まりは、3組の講員が14日午後からそれぞれの宿の田んぼで、とんどを組み合わせることで幕を開けます。

とんどの組み立てが終わると、講員は着物に着替え、14日夕方その年の宿へ集まります。午前中には、前年の宿（井上文彦さん）から、今年の宿（山本悦三さん）へと天照皇大神の軸が受け渡され、今年の宿では準備がおこなわれていました。

講員6人が集まると、軸に向かい厳肅な雰囲気の中、古式に従って祝詞をあげお神酒をいただき、近況や今年の抱負、次世代への講の伝承などについて語り合い、和やかな宴が終わるころ、お盆に「代参」と記され折り畳まれた和紙が並べられます。伊勢へ代参する人を決めるくじ引きです。2人選出され、2月に伊勢神宮へ行くそうです。

伊勢神宮は、もともと伊勢地方の地方神を祀ったものであり、5世紀以降、古代天皇勢力の進出にともなって、奈良時代に最高の地位が与えられました。

鎌倉時代以降、伊勢神宮は武士階級の寄進によって維持され、後に伊勢信仰が武士階級に広がり、やがて室町時代には下層の名主から農民・商人にも浸透していきました。

それにもなつて、14世紀ころから近畿地方を中心に集団参拝が盛んになります。参拝人は講ごとに組織されていたようです。久御山町では、伊勢講はかつて全村に存在し、数10組あったと伝えられています。

15日の朝、講の人々がとんどが組み立てられている場所へ集まります。宿の主人が点火すると、火はたちまち天を突きます。とんどが燃えている間、竹に餅を差して焼き、灰をまぶして食べるのは、無病息災のまじないといわれています。

とんどが燃え尽きると、火のついた竹の棒を途中で消さないようにくるくると回しながら大藤神社へ参拝します。昔は、この火のついた竹の棒を持ち帰り、かまどの火種にしたそうです。



勢よく燃え上がるとんど



とんどに集まる地元の人々



とんどの火で餅を焼く



一年の無病息災を祈って、大藤神社へ参拝



# くみやま ほほえみ Worker!!

防犯と地域の「キーパーソン」

安全・安心なまちづくりのために  
見守ってくれている人がたくさんいます。  
「防犯と地域コミュニティ」について伺いました。



こども110番のいえ

嘉村せつ子さん、稲村福次さん

お店の前が、子どもたちの登校の集合場所にもなって、50人くらいが通っていきます。

毎朝の「おはよう」が大切です。近所同士でお互いに助けあうことが今の時代の防犯につながることはないでしょうか。

みなさん暮らしを守るために、パトロールなど熱心にされています。さらに、テーマとしてだけの防犯活動で終わらせず、話題にすることで啓発にもなると思っています。年齢に関係なく、情報交換や話し合いを活発にすることが、地域の連帯感を強くしていくのではないのでしょうか。まずは親から子へのコミュニケーションが大切だと思います。



東角校区防犯・防災対策協議会会長

安田 悟さん

日野小学校、池田小学校の事件をきっかけに発足したこの協議会では、幼稚園や保育所での防犯スクールや防犯フェアなど、防犯意識を高めるための催しをおこなっています。

朝の登校支援や下校時のパトロールを積極的におこない、子どもたちの安全を見守っています。

また、地域の人に呼び掛けて、小学校のグラウンドでパトロールを兼ねてグラウンドゴルフをもらったり、犬の散歩をしながら周囲に気を配ってもらったり、少しの気遣いでも目を増やすことを目標にしています。「一人でも多くの人に日常生活の中で活動してほしい」それが願いです。



総務課防災係主査

岡本 浩武さん

「防災係」が設置されてから、住民のみなさんのご意見やご要望をお聴きし、コミュニケーションの大切さ、そこから広がる連携の重要性を再認識しています。

子どもを守るためのさまざまな対策、学校やPTAとの協力・連携、生活安全まちづくり連絡会の充実のほか防犯・防災出前講座の開催、パトロールに協力して下さる車両へのマグネットシールの配布など、町から多くの情報を発信しつつ、地域社会のみなさんの協力を得て、町の安全の確保に全力を尽くしたいと考えています。

今後、子どもを守るネットワークづくりをめざしていきたいと思っています。

